

秋の彼岸によせて

令和六年九月 大乘寺 長老 岡 光俊

皆さま、お元気で過ごしてはいかがでしょうか。≡とつい口から出るほど今年も厳しい酷暑でした。

多くのかたが、軽重を問わず、熱中症を体験されたのではないのでしょうか。

体温を超える日が続き、体に熱がこもる感覚も九月の暦を見る頃にやっと薄らいできたように思っています。

今回は、最近、兵庫県知事の問題が多くメディアで取り上げられているこの機会に、人の言葉の元はなんなのか。お釋迦さまはどのようにお説きになられているのかを見ていきたいと思えます。

我が国のイジメ問題は、調査を始めてから毎年増加の一途を辿っています。実態は未だ掴めていません。

この難問に対し、真剣に取り組まなければならないのは、生命を脅かす問題へと発展するからです。

お釋迦さまは、人は常に謙虚であれと申されます。

無知な人は、己の立場や実情が理解できていない為、ついつい横柄な姿となるものであるとお説きです。

この姿がイジメの行動へと変化していくと申されます。

ロシアのウクライナ侵攻も国と国のようにも、プーチン氏のゼレンスキー氏への感情的要素が発端にあつたのではないのでしょうか。

どの国の戦争も仕かけた人の欲望は、個人の欲望に皆を従わせるエネルギーに変化していくようです。

個人の争いと同じように。

争う為の大義名分を並べますが、そこには、争いを仕かけた者の貪欲が鮮明に現れてきます。

世界の人々は、今日まであらゆる自然災害と戦ってきました。

なかでも日本は、地震、噴火、台風、津波、豪雨、風雪等、自然から何度も繰り返し襲われ、向き合ってきました。

自然との戦いと、人間同士の戦いと大きく異なるところがあるように思います。

自然との戦いには終わりがあります。また人々は古来から自然に忖して向き合うという言葉を選ぶように、多くの命を奪われても、自然に対して人は、尊厳と赦しの心を抱いています。

その一方で、人の奢りから始まる争いは、奢った人やその親族が減びない限り続くものです。

人の奢りは無知から始まるとお釈迦さまはお説き下さいます。

己の器のなさを知らないことが原因とのことです。

家庭や社会生活でも、争いの原因は己の器のなさを知らない者が始めると。

己の器を測る方法をご存知ですか？

「奢り」も幾つかあり、「卑下増上慢」というものもあるようです。

それは、奢りのなかでも最も気づきにくく、夕子の悪い奢りだそうです。

私ほど謙虚な人間はいません、私ほど正しい人間はいませんと思ひ込んでいる人のことだそうです。

自分が奢っていることを知らない人は、裸の王さまそのものであると申されます。

毎年八月の盆月一ヶ月間、大乗寺では地獄極楽絵図を公開させて頂いておりますが、地獄絵を見て目を覆う人々も多くおられます。現世でほかの人や生きとし生けるものにしてきたことを霊界に戻ると同じことを鬼にされるという場面です。

人の心の残虐さは、今もなにも変わっていません。

ロシアが侵攻を始めてすぐの時期、ロシアの獄中で罪を償っていた人々をなんの訓練も受けさせず最戦線に送り込む。奢った者、独

裁者の元では命令厳守以外の選択はありません。

プーチン氏がウクライナ侵攻を企んだとき、これ程多くの国がウクライナを支援するとは想像すらできなかったのは、己の器がまったく見えていなかった表れではないでしょうか。

己の器が見えていないことで、何万人もの人の命を奪うことにまでなる恐ろしさを感じて頂ければと思います。我が国が先の大戦を始めたときの陸軍、海軍のトップの器と同じように見えてきます。

お釋迦さまは、奢りを人の最も危険な心とされています。

奢りを軽く見ないで下さい。

奢りは人に威圧を与えます。

本人は快感を味わっています、相手は恨み、憎しみ、殺意を持つことをお忘れなく。

皆さまの家庭には、奢った人はいませんか？

奢った人はいないと大きな誤解をしている皆さま。

秋の夜長、今年は家族や身近なかとゆっくり話し合い。

ご先祖さまと共々、佛さまの教えに向き合いましう。

そして、己の器を測る方法をお釋迦さまに教えて頂き身につけましょう。

そのことが皆さまの日常の悩み、苦しみ、迷いから「彼の岸である、悟りの岸にみずから進む機会」を見つける佛縁となるものです。

佛縁を頂き、皆さまが奢りのなかにいることに気づかれたとき、初めてイジメの心は皆さまの心から消え、菩薩さまのような慈悲に満ちた心で家庭も社会も明るく豊かになることでしよう。